減災 NEWS

近畿大学奈良病院DMAT災害対策委員会

文責：岡本　広世

vol. 26　2026. 2. 13

減災ニュースVol.23に続き、三宅町体育館で実施された避難所訓練に参加しましたのでご報告いたします。本訓練は、広陵町および高取町で最大震度6強を観測した地震に加え、数日前からの大雨により土砂災害が発生しているという想定のもとで行われました。Vol.24・25では地震発生当日のトリアージ・広域医療搬送訓練について報告しましたが、Vol.26では発災から数日が経過した避難所運営を想定した訓練について報告します。

避難所には、直ちに治療や搬送を要する重症傷病者は多くなく、DMATが発災直後のような傷病者対応を担う場面は限られます。しかし、慣れない避難所生活や環境の変化により、不安や抑うつ状態、感染症、歯科的なトラブル、妊婦や高齢者への対応、転倒などによる外傷といった健康問題が、時間の経過とともに顕在化していきます。これらは、放置されれば状態悪化や**災害関連死**につながる可能性があり、早期に発見し、適切に対応することが重要です。本訓練では、このような被災時のニーズを収集し、評価・分析を行い、関係機関で共有するシステムを活用することで、被災者および避難所に対して迅速かつ正確に対応できる体制づくりを目的として実施しました（概要は下の図）。看護学校の学生が被災者役・施設管理者役を担い、参加団体（右の表）の医療・保健関係者が情報収集や評価を行うことで、避難所における医療従事者としてのDMATの役割を確認する訓練となりました。

【避難所訓練への参加（コントローラー）】
看護師：辻谷　太　　調整員：岡本　広世

主な参加団体
- 災害医療コーディネーター（研修企画・運営担当）
- DMAT（災害派遣医療チーム）
- JDAT（日本災害歯科支援チーム）
- DJAT（災害派遣柔道整復チーム）
- 災害支援ナース
- JDA-DATなら（日本栄養士会災害支援チーム）
- 日本赤十字社救護班
- DWAT（災害派遣福祉チーム）
- DPAT（災害派遣精神医療チーム）
- JRAT（日本災害リハビリテーション支援協会）
- DHEAT（災害時健康危機管理支援チーム）

被災者・避難所のニーズを収集し迅速かつ正確な対応を目指します

被災者へフィードバック

日赤救護班、災害支援ナース、薬剤師会、DPAT、JDATなどが診療・対応を行います

本部対応（災害診療・物資供給）

本部活動は、行政職員、災害医療コーディネーター、各団体リエゾンにより運営され、災害医療コーディネーターは、亜急性期に多数の支援団体を統括する役割を担います

当院の二川医師が災害医療コーディネーターであり、災害医療の中心的役割を担っています

避難所へフィードバック

ライフラインの復旧、必要物品の補給や自衛隊による炊き出し、お風呂などの支援

災害時保健医療福祉活動支援システム（D24H）に登録

他の避難所を含め被災地全域で集積、解析を行い共有できる状態にして、地域本部会議にて共有

被災者個々に聞き取りを行い、体調や心理的な問題などが無いか情報収集を行います

避難所の施設管理者から聞き取りを行い、災害発生後、避難所の環境（ライフライン、衛生、運営、医療ニーズなど）や被災状況（要配慮者、傷病者など）を収集

被災者アセスメント

避難所ラピッドアセスメント

今回の訓練想定である発災6日目の避難所では、DMATが主に活動する超急性期とは異なり、多様な背景を持つ被災者が生活しており、関わる支援団体も増加します。その分、扱う情報は多岐にわたり、連携すべき組織も多くなるため、本部を頂点とした明確な指揮命令系統を確立しなければ、正確かつ迅速な対応は困難であると感じました。これは日常診療においても同様であり、どのような場面においても、定期的な現状把握と情報共有を行い、発生したニーズに対して迅速かつ適切に対応することの重要性を、改めて認識する機会となりました。

ご意見やご感想、ご質問等ございましたら、【患者さまの声】にお願いします。
（患者さまの声は、2階正面玄関前カウンター、再診受付機脇、各デイルームに設置しています。）